

# Vol.34 心電図検査とは？

文責：臨床検査技師 小曳

## 心電図検査とは

心電図は両手足と胸にいくつかの電極をつけ、そこから心臓で発生する微量な電気を取り出して記録する検査です。

## 心電図検査でわかること

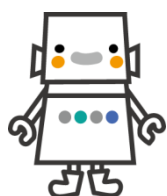
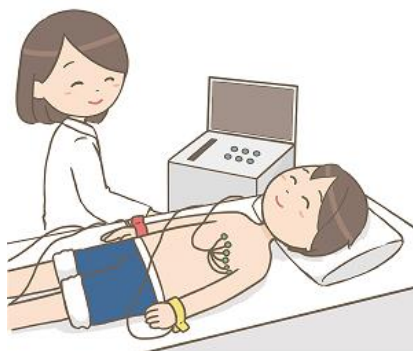
心電図検査では、脈の乱れ（不整脈）や心筋梗塞や狭心症などの筋肉に異常がないか、その状態がわかります。



## 検査の流れ

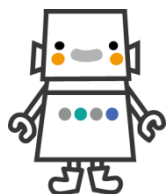
 検査時間は数分ほどです。

- 検査室受付
- ↓
- 脱衣（上半身）
- ↓
- 胸・手首・足首に電極をつける
- ↓
- 心電図波形記録
- ↓
- 電極を取り外して終了



検査中ビリっとしませんか？

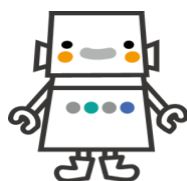
心臓から発生する微量な電流をとらえる検査で、機械から体へ電流を流さないなので痛みやしびれはありません。



前に「異常」と言われましたが、今回は「異常なし」と言われました。なぜでしょうか？

心臓に症状が出ていないと心電図に変化が出ず、「異常なし」となることがあります。





心電図検査で「異常」が見つかりました。  
どうしたらいいですか？

心電図検査の「異常」の中には健康な人でもみられるものもあります。医師の判断に従って精密検査や治療を行ってください。



## よく見られる心電図検査の所見

主な所見	所見の解説
洞性徐脈	1分間の心拍数が平均より少ないものです。スポーツ選手など健康な人でもみられます。極端な徐脈やめまいなどの症状がなければ心配ありません。
左軸偏位 右軸偏位	「軸」とは心臓の電氣的活動の方向を平均したもので、左軸偏位・右軸偏位は正常範囲からずれているものです。極端なもの以外は問題ありません。
左脚ブロック 右脚ブロック	心室のなかで電氣的興奮の伝導障害があるもので、左脚ブロックの場合は、心疾患が隠れていないか調べる検査が必要です。右脚ブロックは一般的に心配ないことが多いです。
上室性期外収縮 心室性期外収縮	多くの人に見られる不整脈の一種です。加齢、飲酒、ストレスなどで出現することがあります。心疾患に伴うものもあるため、頻発するものや症状があれば精密検査が必要です。
心房細動	循環器専門医の治療を要する不整脈です。放置すると血栓や心不全の原因となります。
左室肥大 高電位	心肥大を疑う所見ですが、体型などにより健康な人にもみられます。心エコーで判定できます。
R波増高不良	心筋梗塞や心筋症を疑う所見ですが、体型などにより健康な人でもみられます。強い胸痛や息切れなどに症状があれば循環器専門医による精密検査が必要です。
陰性T波 平低T波 ST低下	高血圧、弁膜症、心筋症や虚血性心疾患で見られます。強い胸痛や息切れなど症状があれば精密検査が必要です。

\*当健診センターでは、検査結果でD2判定項目がある方には、宛先未記入の「精密検査依頼状」を健診結果とともにお送りしています。早期発見・早期治療にぜひお役立てください。



・精密検査の結果で良性の診断が確定した場合でも、精査先の主治医の指示に従って経過観察は必要です。

当センターには、保健指導担当の保健師、管理栄養士がいます。  
健診の際は、お気軽にご相談ください。